いにしえと 未来を結ぶ まちづくり　町並み通信・第17号

鯖街道 熊川宿

平成20年8月1日発行

若狭熊川宿まちづくり特別委員会
福井県三方上中郡若狭町熊川
TEL／FAX (0770) 62-0330
熊川宿ホームページhttp://kumagawa-juku.cor

環境省「平成の名水百選」に選定された前川と熊川宿の町並み

熊川宿前川が「平成の名水百選」に選定

熊川宿の街道に沿って流れる前川は、近畿一の水質を誇る北川上流の天増川と河内川から取水され、かつては人馬の飲み水として、また生活用水として、さらには下流域の農業用水として利用されてきました。

今も昔ながらに「かわと」という水利施設が見受けられ、涼しげな水しぶきをあげて「芋洗い器」が廻っています。夏には子ども達が手足をつけて遊び、冬には厄介な雪を流してくれます。昔と変わらない美しい水質と豊かな水量が保たれて、住民の暮らしに無くてはならないものとして、また熊川宿の歴史的景観に重要な役割を果たす環境資源となっています。

平成八年からは景観整備が行われ、石積み護岸の前川が町並みと実に良く調和しています。また住民による前川沿いの花の育成や清掃活動が行われ、住民自らが清涼な流れを守り、訪れる人々に潤いと癒しの空間を提供しています。

目次

熊川宿前川が「平成の名水百選」に選定……1
寄稿文……2
まちづくり総集会……3
日本風景街道事業……4
事業計画・話題 ほか……5
活動報告・お知らせ……6

熊川宿万歳！

若狭町文化財室 室長　小山田　勝昭

この4月から縁あって文化財室でお世話になることになり、それと同時に熊川宿とも関わらせてもらうことになりました。熊川宿といえば重伝建です。『重伝建』ということばは知ってはいましたが、正式な名前を最後まで言えるはずもなく、約3ヶ月経ってようやく噛まずに「ジュウヨウデントウテキケンゾウブツグンホゾンチク」と言えるようになりました。

冗談はさておき、重要伝統的建造物群に選定されている熊川宿は、いうまでもなく文化財保護法という法律によって保護・保存の対象となっているわけですが、法律だけで保護・保存など到底できるはずもなく、それに関わる人の思い入れや愛着があってこそ、本当の意味での保護や保存ができるのだと思います。そういった点において熊川の場合は、そこに住んでいる方々の目線に立った保存・保護が進められており、建造物の保存・保護ありきではなくて、あくまでも『まちづくり』に軸足を置き、いかにそこに住み続けるかということを最大のテーマにやっておられることがすばらしい。このことはむしろ、伝建地区に住み続けるということはそう簡単なことではない、と実感されている熊川区民の皆さんであるがゆえにできることなのかもしれないのですが…。

上ノ町の町並み（大岩付近）

いずれにしても、いかに住み続けるかというテーマは何も伝建地区である熊川だけに限ったことではなく、他のどの地区にとっても重要な課題です。少子高齢化が進む昨今、このことはたいへん重いテーマであるにもかかわらず、熊川の人々は皆とても前向きです。そんな熊川の人々に心からエールを送ります。熊川頑張れ！熊川宿万歳！

今にして思うこと

岩本　義雄

昭和49年に、「ふるさと熊川の歴史を探る会」ができ、古文書や御用日記などについて教えてもらい、翌50年には、（旧）上中町の公民館活動が充実されるのを機に、「文書の里推進協議会」と改め、まちづくり運動の第一歩を踏み出しました。日が経つにつれ熊川の様子が次第にわかり興味がわき、昭和53年1月に小冊子「くまがわ」が発行されてから熊川宿に対する自覚が増し、ふるさとを誇りに思うようになりました。

ある時お客さんに「ここの自慢は何ですか？」と尋ねられ、「裏川（北川）で鮎の友釣りができ、ようけ（沢山）釣れます」と言ったら、「鮎釣りには時々寄せてもらっていますが、村全体としての自慢は？」と言われ、町並み保存でいろいろと話し合っていたこともあり、自分なりに、「熊川には三つの川がありまして、一つは溝川、次に前川、その次が大川（北川）です」と答えました。

北川（錦屋橋からタカゲン裏を望む）

溝川は、家と家との間にある幅二、三十センチ位の溝で、家の使い水や雨水が流れており、屋敷の境となる大事な溝です。また、常に水が流れている所もあって、子供らの遊び場になっていました。

次が前川で、家の前を流れ、家庭の用水としてみんなに親しまれ、顔も洗ったくらいで一番大切にしています。上ノ町は、夏場には前川の水量が減り、水の取り入れ口である大杉にある一ノ井根（堰）を直すのに大変苦労しました。前川は防火用水でもあり大切な役割を持っています。また道が舗装されるまでは、車が通るたびに水まきを仕事のようにしていました。

こうした前川の水が落ちる所が大川（河内川や北川）で、小浜湾に流れ、春には桜うぐいが群がる所もあり、5月には稚鮎の放流が

一ノ井堰建設記念碑

和やかに元気よく
熊川宿まちづくり総集会

とき：平成20年2月10日(日) 午後2時～
ところ：熊川児童館（福井県三方上中郡若狭町熊川）
主催：熊川区・若狭熊川宿まちづくり特別委員会

槌長治郎区長の挨拶に続き、杉谷正美教育長は、「今日は会場いっぱいに集まりおめでとう。小さい子から若い人、中年、お年寄りの方までみんな一緒になってまちづくりを進めて行こう」と話されました。

＊　＊　＊

「かみなかの語り部」の中塚政雄さんは、「四、五年前からお客さんが多くなりてんやわんやです。時には一時間の内にバスが十台も入ったり、寒中でも多くの方が訪れます。一緒に勉強させてもらう気持ちであたっています」と語り部の現状を報告されました。

＊　＊　＊

次に、日頃、熊川郵便局横の駐車場に花を造るなど町並み美化に努められている高橋清二さんに表彰状が贈られました。

＊　＊　＊

河合健一会長は、「熊川宿は伝建選定十年を過ぎ、国をあげての制度の中で、昨年から日本風景街道の登録を受けての事業に取組んでいます」などと最近の活動内容を話しました。

＊　＊　＊

続いて、19年度日本風景街道事業の一つで「子ども語り部育成」として、熊川小学校のご協力をいただき、児童達に登場していただきました。

これは昨年6月からの総合学習で、熊川小学校の児童達が、熊川宿の魅力を自ら発見し調査した「熊川調べ」の発表が行われたもので、児童達が熊川宿を歩き、見て聞いて調べた事を、マップ班、ホームページ班、パンフレット班のグループ毎にまとめ、ひとりずつ順に発表しました。

「こんなところがあるよ、熊川の名所」と題して発表した児童は、白石神社や松木神社、宿場館、旧逸見勘兵衛家、前川などを紹介、また孝子与七や伊藤竹之助、熊川宿の誕生など歴史を、或いは葛製品や焼さば、鯖寿司など熊川の名産品を紹介する児童など、集まった区民は、子ども達ならではの観察や発表に興味深く聞き入りました。これからも熊川に誇りを持って育ってほしいと思いました。

子ども達から熊川の大人達への質問コーナーもあり、「町並みを守っていく苦労は？」や「これから熊川をどうして行きたいか？」などの質問に区民は苦慮しながらもやさしく答えていました。

＊　＊　＊

千田千代和若狭町長は、「今日は子ども達の発表を楽しく聞かせていただいた。高齢化が進む中、現役の方に頑張ってもらって、若い人が目を向けていただくことで後継者が育つだろう。お互いに仲良くまちづくりができるようお願いします」と述べられました。

＊　＊　＊

終わりに、河合健一会長が「熊川は町並みと山、川の自然が大切。今後も皆さんのお力添えをいただきながら熊川宿を守っていきたい」と締めくくり懇親会に移りました。

始まり、7月ともなれば釣り天狗で賑わいます。こんないい所はありません。私も鮎の友釣りとなれば弁当なしでもやっていました。

「毎日鮎の顔を見んと寝られんやろ？」とひやかされましたが、鮎もどうせ一年魚ですので、「ひとさまの口に入るのなら満足です」と言っているようにも見えます。荒瀬に向かうときは、おとりに話しかけるように友釣りを楽しんでいました。

ぜひまたあの頃のような豊かな川の流れと鮎釣りの賑わいが蘇り、のんびりと友釣りが出来るといいなぁと思います。

平成19年度 日本風景街道 事業報告（平成20年5月）

国土交通省の日本風景街道の正式登録を受けて、平成19年12月から平成20年3月にかけて次の事業に取組みました。

一、活動団体紹介パンフレット作成

熊川宿のルートやまちづくりの経緯、活動内容を紹介し、団体間の交流を図るとともにまちづくり視察の際の資料として活用していきます。

二、熊川宿ファンクラブ設立準備

熊川宿のさらなる活性化と、会員と住民の交流・親睦を図るため、心から熊川宿を応援してくださる方々を全国から募り、ファンクラブを設立します。

その準備事業として、会員募集ちらし、会員証、封筒を作成しました。

三、風景街道ルート研修

12月8日、丹後半島「古代ロマン街道」を研修しました。

舟屋の伊根浦、琴引浜鳴き砂文化館を経て久美浜の豪商稲葉本家を伺い、久美浜一区まちづくりの取組みや活動をお聞きしました。

ルート研修（久美浜）

四、子ども語り部育成・テキスト作成

（協力：若狭町立熊川小学校）

熊川宿の未来を担う子ども達が、19年度の総合学習で、熊川宿の魅力を発見し調査する「熊川調べ」を行いました。

熊川宿まちづくり総集会「熊川調べ」発表

西村幸夫先生と語る会（熊川小学校）

2月10日の熊川宿まちづくり総集会では「熊川宿のおすすめスポット」としてその学習成果が発表されました。

3月6日には、昭和60年に児童達と町並みを調査された東大教授の西村幸夫先生をお招きして「西村先生と語る会」が開かれ、熊川の町並みについて話されました。

さらに3月13日には児童達による子ども語り部が実践され、かわいい語り部達が大変好評でした。

また子ども達が制作した作品を元にパンフレットを作りました。

子ども語り部テキスト

子ども語り部実践

五、町並み防災研修

（熊川宿町並み保存伝統技術研究会）

重伝建の熊川宿では独自の防災計画の策定が望まれています。観光客の保護も含めた防災のあり方や今後の防災計画策定に繋げるための研修を行いました。

3月2日、近江八幡を経て、東近江市の五個荘金堂伝建地区へ伺い、担当者から防災計画策定の経緯をお聞きした後、町並みや防火設備を見学、鈴木有先生からは「住民中心で手づくりの防災計画を作ってほしい」とアドバイスがありました。

防災研修（五個荘）

六、茶道研修・ギャラリー運営

（熊川宿おもてなしの会）

いっぷく処「勘兵衛茶屋」でのおもてなしをさらに充実させるため、新メニューの開発として茶道研修を行い、ギャラリーの照明装置を整備しました。

七、案内看板の作成

（熊川宿町並み保存伝統技術研究会）

熊川宿内の歴史遺産を紹介する案内板の老朽化が進んできたので、やさしく見やすい木製案内板を作成しました。

住民と行政の協働による 防災まちづくり計画策定始まる

若狭町は、熊川宿の価値ある文化財建造物と歴史が育んだ町並みを災害から守り、住民が安心して住み続けることができ、あわせて観光客の保護をはかるため、「伝建地区若狭町熊川宿の防災まちづくり計画策定委員会」を設置しました。計画は、住民がつくる行動計画を盛り込んで、具体的で実効性のあるものになるよう取り組んでいきます。

6月28日と7月5日には、住民による防災ワークショップが開催され、伝建地区内を歩き、防災上の課題について調査し話し合いました。

若狭町 エコ・グリーンツーリズム計画

緑豊かな田舎で、自然、文化、交流を楽しむ滞在型の余暇活動をグリーンツーリズムといいます。さらに自然観光資源の保護に配慮しつつ、資源に触れ合い、知識や理解を深めるという活動が加わりエコ・グリーンツーリズムとなります。

若狭町ではこのような観光を希望されるお客様をお迎えするしくみづくりを進めています。

熊川宿においては、公開施設でおもてなしの場となっている旧逸見勘兵衛家を改修して、宿泊施設としての活用を検討しています。

平成20年度 若狭熊川宿まちづくり特別委員会 事業計画

(H20.5)

5月17日	ツーデーマーチ協力
26日～28日	全国伝統的建造物群保存地区協議会 研修出席（福岡県うきは市）
5月31日	町並み保存連盟理事会出席（東京）
5月下旬	一乗美林街道の整備
6月上旬	城跡の整備
6月	若狭町エコ・グリーンツーリズム説明会
7月	第1回活性化委員会開催
7月下旬	町並み通信 第17号発行
9月	第2回活性化委員会開催
9月18・19日	堀割協議会
10月12日	熊川いっぷく時代村（熊川いっぷく時代村実行委員会主催）
11月	ダム視察・町並み見学（ダム対協力）
＜平成21年＞	
1月	防災まちづくりシンポジウム
1月下旬	町並み通信 第18号発行
2月	熊川宿まちづくり総集会

随時
- 町並み関連の駐車場、前川、道路、神社の清掃と草刈りなど
- 防災計画の策定・推進
- 委員会、役員会、部会開催
- ホームページの更新

「かみなかの語り部」のいとなみ

若狭町かみなかの語り部 会長 中塚政雄

道の駅「若狭熊川宿」を起点に、熊川宿を中心とした私たちの住む町のよさを広く伝え、訪れる観光客にあたたかい心で接したいとの願いを込めて、現在十人程のメンバーで活動している。年々予約申込みの件数も増加している。ピークは桜の頃と紅葉の頃だが、本年などは大寒の頃でも訪れる客がある。

語り部利用件数

平成十六年　二五〇件
平成十七年　二〇〇件
平成十八年　三〇〇件
平成十九年　五〇〇件
（件数はバス一台のときもあれば三台のときもある）

語り部活動時の心構え

一、豊かな洞察力を持つ
　客の心理をつかむこと
二、豊かな知識力を持つ
　たゆまぬ研修と内容に精通すること
三、豊かな接客術を持つ
　明るい態度、明るい笑顔、明るい言葉
四、豊かな表現力を持つ
　正しい、美しい、平易な言葉で気持ち良く聞いてもらう
五、豊かな抱擁力を持つ
　教えてやるではなく、一緒に勉強しましょうの気持ちで接する
六、豊かな管理能力を持つ
　事故のないよう万全を期す（交通事故、忘れ物など）

「もう一度この町を訪れたいなぁ」「知人や友人にも勧めたいなぁ」と思って帰られるような心配りが出来るように絶えず心がけたいものである。

話題 TOPIXS

荻野選手たちの活躍に期待

バレーボール全日本男子チームが16年振りに五輪出場を決めました。

キャプテンを務める荻野正二選手は若狭町瓜生出身で、幼少の頃、熊川保育所に通ったこともある熊川に縁のある選手です。北京五輪での活躍をみんなで応援しましょう。

がんばれ！ニッポン。

平成20年1月～

1/21 西山和宏先生を囲む会

文化庁文化財部参事官の西山先生が一年ぶりに来られ、「熊川は着実に修景が進んでいる実感を受ける。地域活動に熱意が感じられる。住民意識の高さを次世代に繋げていってほしい」と話されました。

5/3 白石神社祭礼で山車巡行

宵宮では拝殿でお雛子の奉納が行われました。少子化の影響で少なくなってきた子ども雛子に、今年は中学生も参加してくれました。

当日は快晴のもと、午後から山車の巡行が行われ、本陣前を出発。上ノ町を経て大杉の端で折り返し、上ノ町、中ノ町、下ノ町を巡行しました。山車の巡行が進むにつれて曳き手もどんどん増えて、賑やかなお祭りとなりました。

本陣近くの軒先では、女性の会有志による大判焼きや自衛消防団によるゲームに子ども達の歓声があがっていました。

5/17 ツーデーマーチでおもてなし

晴天のもと、若狭三方五湖ツーデーマーチが開かれ、熊川宿へも全国から多くのウォーカーが訪れました。

今年も熊川区や女性の会、まちづくり委員会が協力し、長操鍋（大豆入豚汁）を振る舞い歓迎しました。

5/26 全国伝建協議会総会（うきは大会）

熊川宿から代表が出席しました。記念講演や全国の事例発表が行われ、筑後吉井の町並み見学では観光ボランティアや設計士の方が解説してくださり、小学生による茶菓のおもてなしもありました。懇親会では全国の町並み保存関係者と交流を深めました。

筑後吉井の町並み

6/13 ホタルの里をめざして（熊川宿ホタル生息研究会）

熊川小学校裏の池に生息する梅花藻（ばいかも）

蛍の飛び交う環境づくりを進めている熊川宿で、福井工業大学の草桶（くさおけ）秀夫教授を迎え、蛍の生態についてお聞きしました。西野徳三会長は、「将来は町並みで飛ぶようにし、夜の観光客を呼びたい」と話しています。

あとがき

国土交通省の日本風景街道の登録を受けて、昨年末から数々の事業を行ってきました。なかでも「子ども語り部育成」は、熊川小の子ども達が、熊川宿を調査した事柄を実際に観光客の前で語っていただくという何とも愛らしくて夢のある活動が実現しました。

文化庁の西山和宏先生や、東大教授の西村幸夫先生から「熊川宿は着実にいい方向に進んでいる」とお言葉をいただきました。

このほど熊川宿の防災計画策定が始動しました。また熊川宿の活性化と内外の交流・親睦を目指した「熊川宿フアンクラブ」の会員募集やエコ・グリーンツーリズム計画が始まりました。また、前川が環境省の「平成の名水百選」に選定されました。豊かで清らかな前川を守りながら、みんながよくなる熊川宿に向かって一歩一歩着実に歩みを進めたいと思います。　編集委員

作品募集

熊川いっぷく時代村実行委員会では、皆様から作品を募集しています。

絵画　墨絵　水彩画　スケッチ　写真
CG　絵手紙　短歌　俳句　川柳　など

※詳しくは、熊川いっぷく時代村チラシをご覧ください。

印刷・株式会社　秋文